

社会科 学習指導案

横浜国立大学教育学部附属横浜中学校 村越 俊

1 対象・日時 2年B組 令和4年2月18日(金) 2校時

2 本単元で育成したい資質・能力（評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①関東地方について、その地域的特色や地域の課題を理解している。 ②関東地方の特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。	①関東地方において、中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	①関東地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

3 単元「日本の諸地域 関東地方」について

本単元では、『学習指導要領』の中項目「(3)日本の諸地域」における「関東地方」の内容を扱い、東京大都市圏における人口移動を考察することを通して、上記の資質・能力を高めることを目標としている。この目標と後述する「生徒の学びの履歴」を踏まえ、本単元では、単元を貫く課題を「これから（withコロナ）の関東地方の人口はどう変化するか」と設定する。

関東地方は主に関東平野を舞台に首都圏が形成され、特に東京は政治的・経済的・文化的に中枢的役割を果たす機能地域である。国内における人口集中は卓越しており、東京への人口移動の規模が大きく、神奈川県や埼玉県、千葉県などを含めた東京大都市圏を形成している。2000年頃まで過密などの都市問題に対応するため、都市機能の分散という動きが見られたが、2000年代以降、大学キャンパスの都心移転や東京臨海部のタワーマンションの建設などの「都心回帰」が進み、「東京一極集中」と呼ばれる事象が顕著化している。その中で2020年以降、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大を受けて、人流や経済活動などの自粛・停滞が続いたことで、東京への国内からの人口の移動が減少に転じた。2022年以降の関東地方はこれまでの「東京一極集中」という事象に加えて、コロナといかに共存しながら新たな展開を見せるかが注目される。この予測困難な社会情勢に対して、主体的に新たな課題を見だし、社会状況を多面的・多角的に分析することを通して、その最適解を対話的・協働的に考えようとする姿をつくり出したい。

4 生徒の学びの履歴

本校社会科では、教科の本質を「社会科学的思考の繰り返しを通して、持続可能な社会の創り手を育成する」と設定している。授業開き後の地理的分野の学習において、「『持続可能な社会』（持続可能性）を再定義する」というパフォーマンス課題に取り組み、その中で「時間的視点と空間的視点」に分けて、視点の整理を行った。「時間的視点」とは「世代間公正と世代内公正」、空間的視点とは「環境的適正と社会的公正」という見方であることを授業者と生徒の間で共有し、以降の地理的分野・歴史的分野の学習においても、それぞれの単元の特性に応じて、その見方を働かせるという工夫を重ねてきた。

学習方法については、『各教科のまなびの手引き』で確認している通り、「社会科学的思考の繰り返し」を毎単元で取り入れている。具体的には、社会的事象から問いを立て、そこから単元を貫く課題をクラス内で設定することで、単元全体を見通し、学習を方向付けている。以降、その課題を解決するために4人班を軸とした協働的な学習を行い、それぞれが追究した内容を4人班で共有を図りながら、単元を貫く課題の解決に迫り、学習をまとめている。今回の「関東地方」の単元においてもこれまでの「社会科学的思考の繰り返し」による課題解決の履歴を生かして、関東地方の人口移動に関する学習課題を追究させていきたい。

5 資質・能力育成のプロセス（7時間扱い）

次	時	評価規準 (丸番号は、2の評価規準の番号)	【 】内は評価方法 及び Cと判断する状況への手立て
1	1 3	知① 東京大都市圏の形成の推移と人口移動の特徴及び課題を資料から適切に読み取っている。(○) 思① 関東地方のこれまでの人口移動とその要因を多面的に考察し、表現している。(○)	【ワークシートの記述の点検】 C：ワークシートを用いて一緒に資料を読み取り、コロナの感染状況について考えさせる。 【ワークシートの記述の点検】 C：一緒に学習を振り返り、資料の読み取りの支援をしながら、基礎的な事項を理解させる。
2	4 (本時)	【生徒に獲得させたい認識】 関東地方は東京を中心に政治的・経済的・文化的に中枢的機能を有する地域である。国内における人口集中が卓越しており、神奈川県や埼玉県、千葉県などを含めた東京大都市圏を形成している。一方、過密化などの都市問題に対応するため、都市機能の分散という動きも見られる。その中で2020年以降、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、人流や経済活動などの自粛・停滞が続いたことで、東京への国内人口移動が減少に転じた。これまでの東京一極集中とコロナ禍という2つの事象が重なることで、首都東京を中心に「withコロナの新たな機能地域」が形成される。 思① コロナの影響と関東地方の人口移動について追究する学習課題を見だし、仮説を立てている。(○) 知② 追究する学習課題を基に、「東京一極集中」という事象がコロナの影響により変化が生じていることを理解している。(○)	【ワークシートの記述の点検】 C：ワークシートを用いて課題を確認させ、仮説を立てられるように資料の読み取りを支援する。 【ワークシートの記述の点検】 C：これまでの学習状況を振り返って、「東京一極集中」の特徴とその要因を確認させ、コロナの感染状況と重ねて問題意識を促す。
	5 6	知② 関東地方の人口移動とその変化についてその要因や背景も含めて必要な情報を調べ、適切にまとめている。(○) 思① 調べたことを基に、関東地方の人口移動とその変化について、多面的・多角的に考察し、表現している。(○)	【付箋の記述の確認・ワークシートの記述の確認】 C：有用な情報を資料から読み取れているかなどの進捗状況を確認し、補足資料の提示や一緒に資料探しを行う。 【付箋の記述の確認・ワークシートの記述の確認】 C：各担当の発表を振り返り、関東地方の人口移動とその変化について話し合った内容を確認させる。
3	7	知② 学習したことを基に、関東地方の人口移動とその変化について理解している。(◎) 思① 関東地方の人口移動とその変化を多面的に考察（推論）し、表現している。(◎) 態① 関東地方の人口移動とその変化から、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。(◎)	【ワークシートの記述の分析】 C：これまでの学習を振り返って、関東地方の人口移動とその変化について、一緒に確認する。 【ワークシートの記述の分析】 C：これまでの学習と話し合い活動を振り返り、関東地方の人口移動とその変化について、確認するように促す。 【ワークシートの記述の分析】 C：これまでに記述した付箋と学習全体を振り返り、自分の学びと次なる課題を記述するように促す。

主たる学習活動	指導上の留意点	時
- 学習プランを通して、単元の目標・学習内容・学習方法を確認し、見通しをもつ。 - 東京大都市圏における人口移動（都市化と郊外化、都市機能の分散、都心回帰など）について、その特性を資料から読み取り、基本的認識を形成する。	- 学習プランを配付し、学習のセルフマネジメントをするように意識をもたせる。 「東京一極集中」という事象が生じていることに気付かせ、関東地方における人口面の特性への理解を促す。	1 3
【課題】COVID-19時空間発生マップから、人口移動に関する自分の仮説を立てよう。 コロナ感染状況とその地域的特性を資料から読み取り、関東地方の人口移動に関する仮説をワークシートに記述し、各自の仮説を学級内で共有する。	- 学びの必然性を高めるため、コロナ禍における生活の変化について自身への問いかけを促す。 - これまでのコロナの感染状況を時間軸・空間軸から捉え、東京を中心に関東地方の各地に感染が拡大していることを読み取らせ、人口移動にどのような変化が生じるか予想させる。	4 (本時)
【パフォーマンス課題】「これから（withコロナ）の関東地方の人口はどう変化するのか」 2020年以降、新型コロナウイルスの猛威により大都市を中心に感染が拡大し、様々な社会変動が生じています。人口が密集する地域ほど感染レベルは高いことが報告されており、大都市東京に隣接する神奈川県で生活する私たちにとっても大きな試練と言えるものです。東京一極集中という事象が「withコロナ」と呼ばれる時代においてどう変化するのか、「持続可能性」を意識して考察しましょう。		
- 追究に必要な資料を検討し、学習プランを使って追究計画を立てる。 - 学習課題と学びの見通し、協働的な学習の進め方について、4人班で共有し、確認する。	「東京一極集中」という都市問題に加えて、コロナによる人口移動が生じていることに気付かせ、またこの先どうなるのかという問題意識をもたせ、課題を整理させていきたい。	
- コロナによる関東地方の人口移動に関する追究活動を行い、ワークシートにその情報をまとめる。 - 各自で調べた内容を4人班で共有する。 - 共有した内容を基に、これから先の関東地方の人口移動について合理的に推論する。関東地方内や他の地方との関連を意識して、人口移動がいかに関係するのかを、多面的・多角的に考察する。	- 教科書、資料集、インターネットを活用して、情報を収集し整理させていく。 - 各自で調査した内容はワークシートにまとめさせ、その情報やデータをTeams内で共有する。 - 人口移動の推論については、合意的な考察になるよう資料や根拠を十分に意識させる。	5 6
- これまでの調査活動、話し合い活動の内容を振り返り、関東地方にはどのような地域の特徴があるか、知識を整理する。 - 単元を貫く課題（パフォーマンス課題）について、再構築された自分の考えをワークシートに論述する。 - 今までの学習活動を振り返り、自らの学びについての変容や自覚したこと、現代社会を考える上での気付きなどを記述しまとめる。	- これまでの学習内容や新たに獲得した認識を基に表現させる。 - ワークシート全体（特に単元冒頭での疑問や仮説）を振り返り、学びの深まりや思考の変容について着目させる。 - 各授業における付箋やセルフマネジメントしてきた活動についても振り返る際の視点とすることを伝える。	7

6 学びの実現に向けた授業デザイン

【「学びに向かう力」が高まっている生徒の姿】

- ・自分自身の生活を問うことからスタートし、その問題意識から課題を設定しようとする姿
- ・自身の問題意識から適切な資料を収集し、地理的事象や資料を分析して課題を追究しようとする姿
- ・主体的に新たな課題を見いだし、資料の読み取りや他者との協働を通して、その最適解を考えようとする姿

【「学びに向かう力」を高めていくための指導と評価の工夫】

○観点別学習状況のあり方

1. 「知識・技能」の指導と評価

本単元では『解説』に示されているように、関東地方の地域的特色や地域の課題を理解すること、中核とする事象とそれに関連する他の事象や課題を理解することが求められる。すなわち、関東地方（とりわけ東京大都市圏）における人口移動の推移から、空間的相互作用を意識してその特色と課題を認識させられる単元構成を心がける。そのためには、関東地方（東京大都市圏）の人口移動に関する様々な資料を収集させ、その資料の中から有用な情報を適切に選択しながら説明させたり、読み取った情報を吟味させたりする場面を設け、事实的知識の習得が概念的な理解を伴ったものとなっているかを確認することが重要となる。単元の終末では、ワークシートに獲得した知識を整理する活動を通して、一層の定着を図る。

2. 「思考・判断・表現」の指導と評価

生徒が自らの学びの履歴やプロセスを自覚しやすいようにするために、探究活動の流れを可視化できる一枚式ワークシートを用いている。本単元での目玉は、関東地方の地域的特色や課題に関する事实的・概念的知識を習得した上で、「コロナ禍」という今日的視点を加えて、関東地方の人口移動を「推論する」という追究活動を行うことである。「推論する」という活動には、根拠を基にした予想を生み出していくことが必要であり、より説得力のある推論を主張するためには、多面的・多角的な考察が求められる。身に付けた知識や技能を根拠・論拠としながら、多面的・多角的な考察を協働的に行うことを通して、いかに説得力のある推論を主張することができたか、生徒の記述から評価する。

3. 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

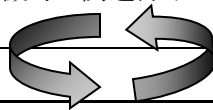
単元を貫く課題を協働的に解決するための追究活動の計画を立てるなど、セルフマネジメントを活動の柱にしてきた。その追究活動を行う中で、単元を貫く課題にどのように迫ることができたかについて、毎時間3色の付箋を使い分けながら振り返りを記述させている。生徒には3色の付箋と、自身のセルフマネジメントに対する授業者からの形成的評価を基に、必要に応じて活動計画を修正させることで、学びに向かう力の涵養を促す。また、第3次では単元全体の振り返りを行う中で、単元冒頭での問題意識から、いかに自身の思考の変容や新たな課題を生み出すことができたかを記述させ、その主体的に学習に取り組む態度の形成を評価する。

○生徒自身が「学習と成果」を実感できるプロセス

本単元で想定される「学習と成果」を実感できるプロセスは、自らの問いや課題に対して有用な資料に出合ったり自分の考え（評価）が他者に認められたりすることで、新たな学びや新たな課題が生成されることである。これは、自らの生活や社会とのつながりを伴う学びの必然性を意識すること、また、毎時間の付箋による振り返り（振り返りの蓄積）と授業者の形成的な評価を繰り返すことによって支えられていくプロセスであると考えている。

【本単元での指導事項】 ※（既習）は既習事項

- ・関東地方の地域的特色や地域の課題を理解すること。
- ・関東地方において、中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。



【本単元における、総合的な学習の時間（TOFY）とのつながり】

- ・課題設定や学習計画を立てる場面においては、**見通す**ことを重視し、セルフマネジメントの軸とする。
- ・追究活動においては、概念的知識を形成する中での知識を**構造化**すること、学習対象について**多面的・多角的に見る**こと、そして、推論する活動においては、**理由付ける・抽象化**することを重視する。

【参考文献】

五島敦子、関口知子(2010)『未来をつくる教育ESD—持続可能な多文化社会をめざして』、明石書店。など